

入勝

〔淺野考譜〕長政は實名安井氏にて、淺野は養姓也。○中同長慶八年より十五年迄之内圍碁之爲御相手度々被召出是者兩御所○德川家康秀忠御密々にて天下御政務御相談在といふ、同十六辛亥年四月七日、長政春秋六十五歲、常州眞壁におゐて逝去、則於同所傳正寺に葬る、法名者傳正院殿功山道忠大居士と號す、此趣達上聽に甚惜思召より、後者東照宮圍碁之御遊を止られ、是を誠に古人割琴の智御眞實なりと、世以奉稱感となり、

〔翁物語 前集十二〕或云、家康公ト淺野彈正ト碁ヲウタセ玉フニ、廣間ノエンニ日影サシタルニ、カヲカサヲサ、セ玉フ、彈正申ケルハ、本因坊助言ヲ申上ル間、ウチ申間敷ト申、本因坊助言申間敷笠ヲサ、セト有リテ、本因坊御笠サシテ、家康御目ノ不行シテ大事ノ所ノ有ツルニ、本因坊笠ヲソロソト引テ、大事肝要ノ所ニ、日ノカゲヲウツシテ見セ奉ル、家康公則時合點マシテ、碁ニ勝玉フト也、本因坊道ニカシコキトテ譽玉フトナリ、

〔東照宮御實紀附録 二十四〕なべてえうなき御遊戯はこのませ玉はざりしが、時としては申樂を御覽じ、あるは圍碁將棋なども、御消閑にもてあそばされし事もありしかど、ふかく御心とめられしにもあらず、

〔台徳院殿御實紀 七〕慶長十三年正月十日、京より宗桂をめし下し、本因坊筭砂と對局せしめらる、〔慶長見聞集 六〕仙榮碁すきの事

むかし我知人なりし眞野仙樂齋は、關東にて碁の上手といはれしが、よの事はかたくなにゆくりなき人にて候ひし、又伊豆國下田と云在所に、山田と云者あり、此の者萬にたらざりけるゆへ、皆人ばか山田と名をよば、なにぞとこたへて腹立る事をゑらす、されども碁をばよくうちたり、先年北條氏直公在世の時分、其のばか山田、用所有てや、折々小田原へ來り、舟方村に宿有しに、